

栗駒山の火山活動解説資料（平成 23 年 7 月）

仙 台 管 区 気 象 台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気など表面現象の状況（図 2～5）

大柳（山頂の南東約 20km）に設置してある遠望カメラでは、噴気は認められませんでした。

15 日に実施した現地調査では、ゼッタ沢上流の噴気の高さは 3 m と低調な状態で、前回（2009 年 7 月 14 日）と比較して、ゼッタ沢上流及び昭和湖の地表面温度分布¹⁾などに特段の変化は認められませんでした。

- 1) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

・ 地震や微動の発生状況（図 6～7）

栗駒山を震源とする火山性地震及び火山性微動は観測されませんでした。

なお、栗駒山の近傍では、2008 年 6 月 14 日に発生した「平成 20 年（2008 年）岩手・宮城内陸地震」（M7.2）の余震域内で地震活動が続いています。

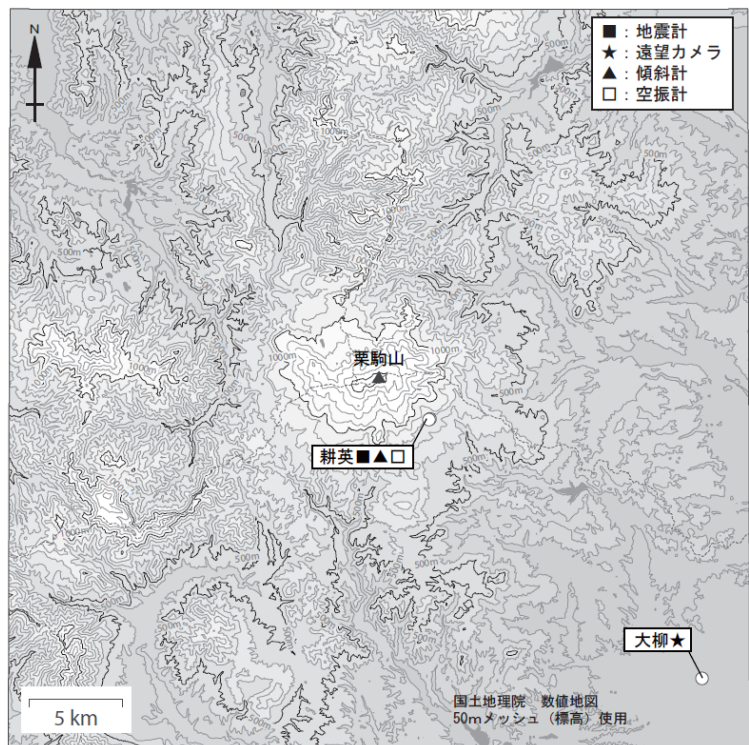


図 1 栗駒山 観測点配置図

（小さな白丸は気象庁観測点位置を示しています。）

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 23 年 8 月分）は平成 23 年 9 月 8 日に発表する予定です。

※この記号の資料は、気象庁のデータの他、東北大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平 20 業使、第 385 号）。また、同院発行の『数値地図 25000（地図画像）』を複製しています（承認番号 平 20 業複、第 647 号）。



図2 栗駒山 遠望カメラの映像（7月5日13時30分頃）
大柳（山頂の南東約20km）に設置してある遠望カメラによる。

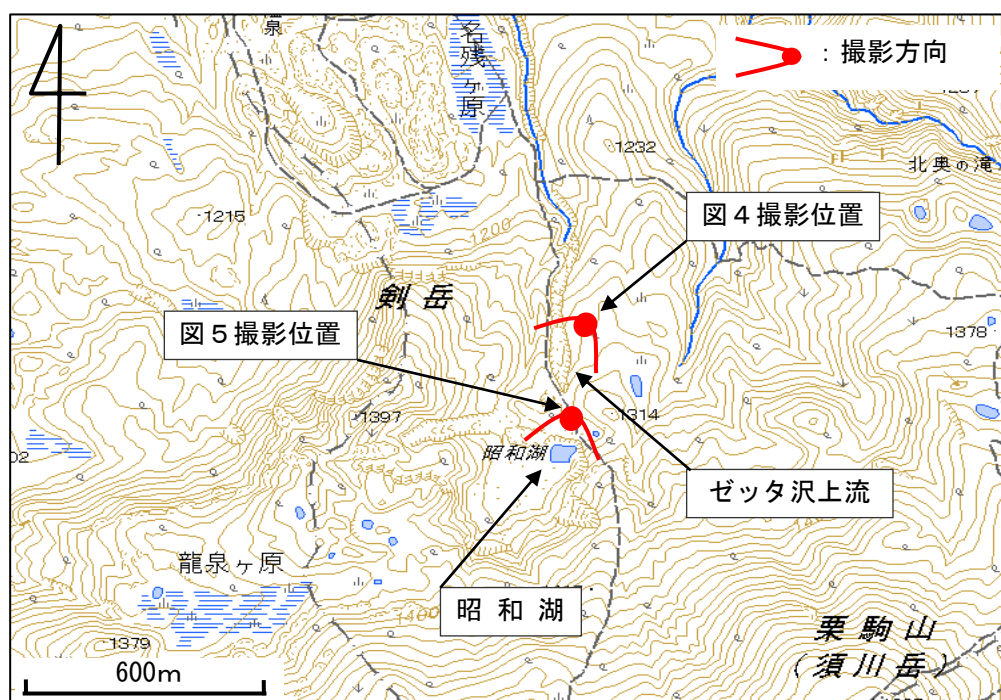


図3 栗駒山 地形図と図4、5の撮影位置

この地図の作成には国土地理院発行の「数値地図 25000（地図画像）」を複製しました。

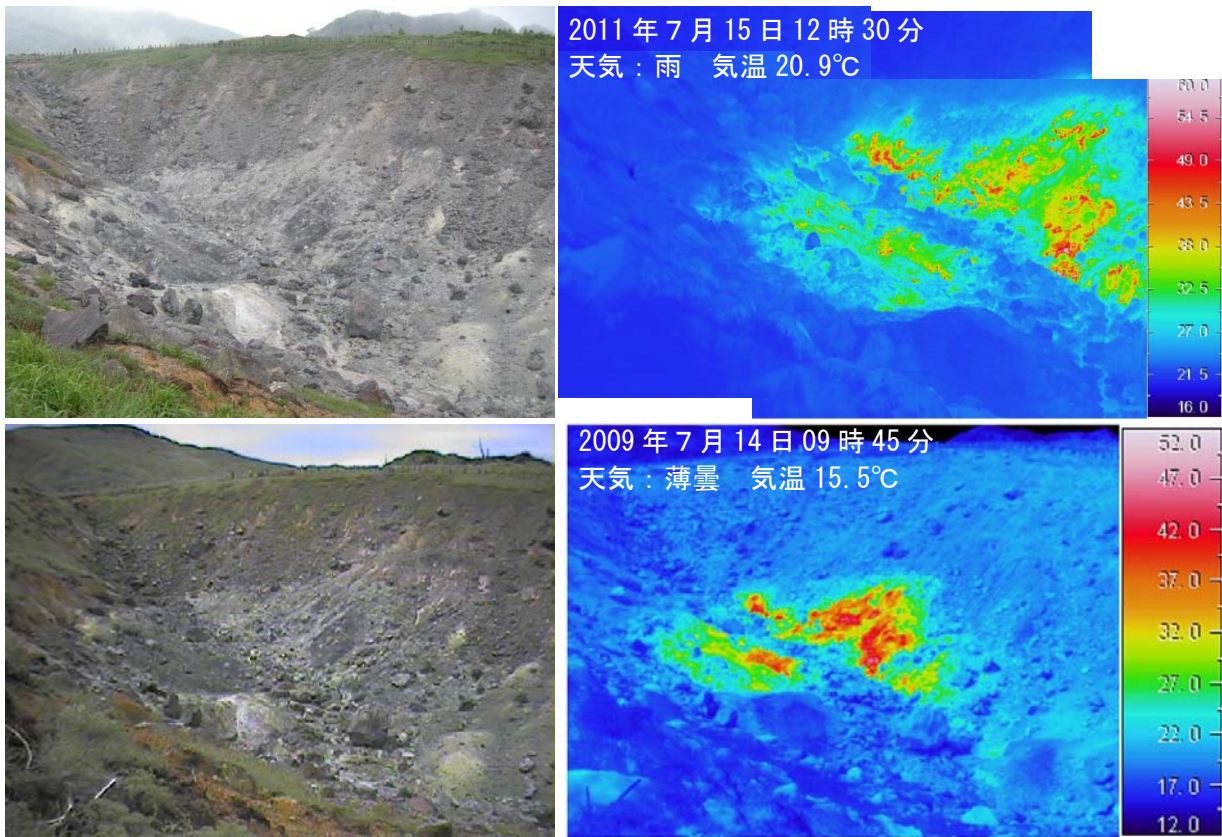


図 4 栗駒山 ゼッタ沢上流の可視画像（左）と地表面温度分布¹⁾（右）

上段：2011 年 7 月 15 日撮影、下段：2009 年 7 月 14 日撮影

前回（2009 年 7 月 14 日）と比較して、地表面温度分布¹⁾に特段の変化は認められませんでした。

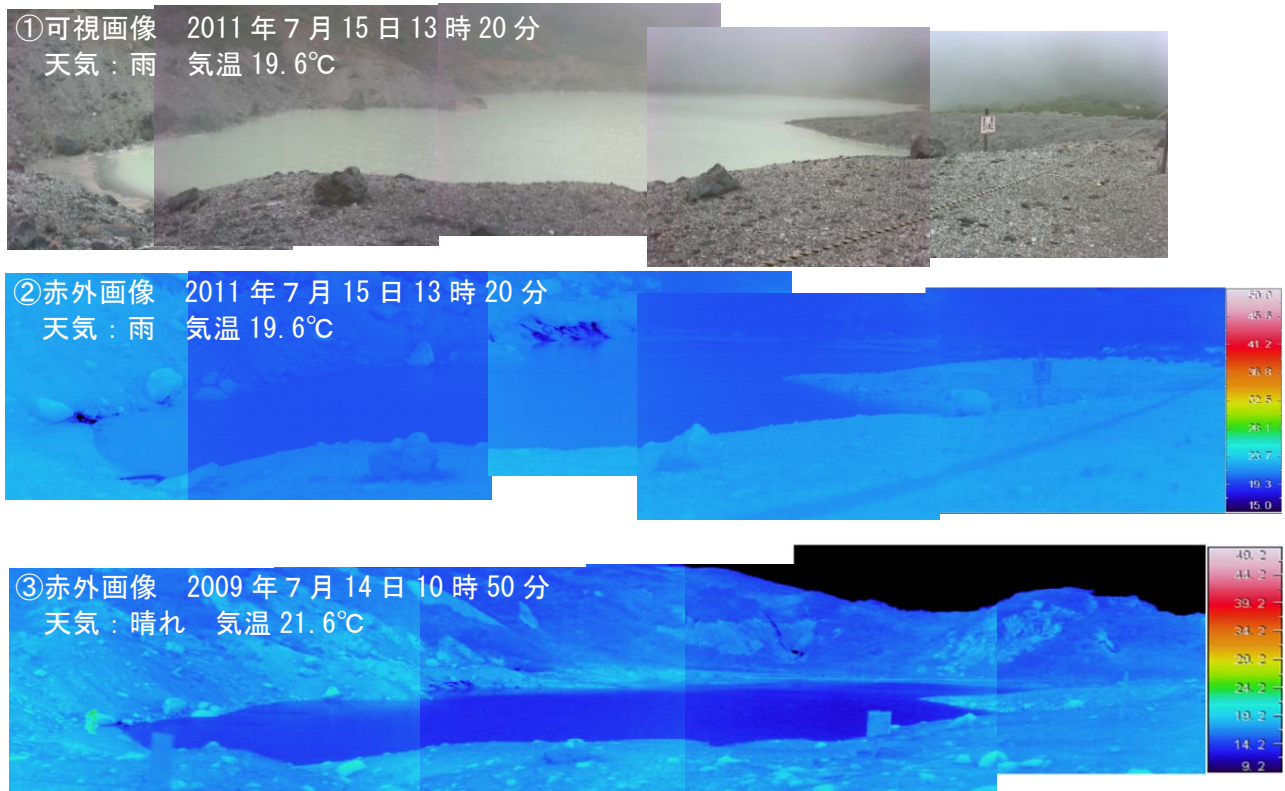


図 5 栗駒山 昭和湖の可視画像と地表面温度分布¹⁾

①②：2011 年 7 月 15 日撮影、③：2009 年 7 月 14 日撮影

前回（2009 年 7 月 14 日）と同様に、熱異常は認められませんでした。

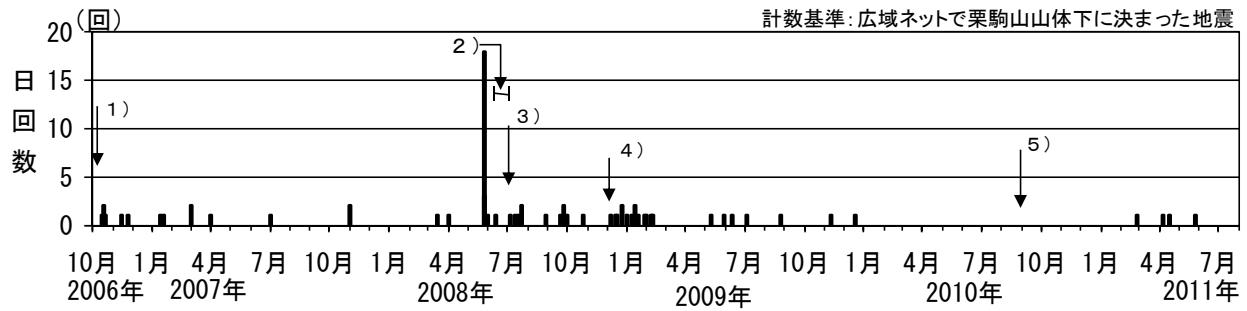


図 6※ 栗駒山 日別地震回数（2006 年 10 月～2011 年 7 月）

- 1) 2006 年 10 月 12 日から旧耕英観測点（山頂から南東約 4 km）で観測開始。
- 2) 2008 年 6 月 14 日から 7 月 2 日 18 時まで「平成 20 年(2008 年)岩手・宮城内陸地震」の影響により観測不能となっていました。
- 3) 2008 年 7 月 2 日 18 時から小安（おやす）観測点（山頂から北西約 10km）で監視を開始。
- 4) 2008 年 12 月 4 日から旧耕英観測点が観測再開。
- 5) 2010 年 9 月 1 日から耕英観測点（山頂から南東約 4 km、旧耕英観測点とほぼ同じ場所）で観測開始。

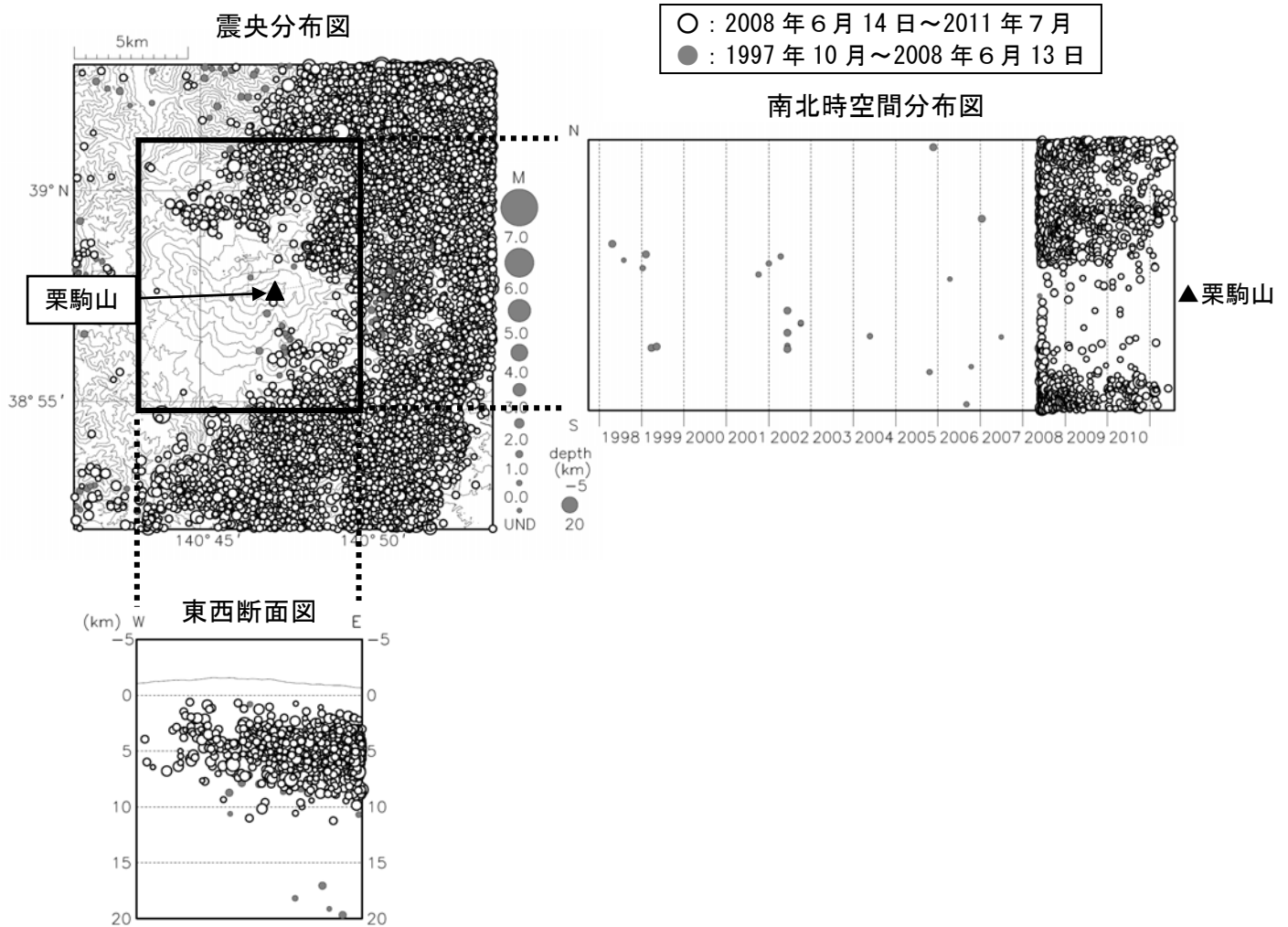


図 7※ 栗駒山周辺の地震活動（1997 年 10 月～2011 年 7 月）

注) 2001 年 10 月以降、検知能力が向上しています。

M（マグニチュード）は地震の規模を示します。

図中の一部の震源要素は暫定値で、後日変更することがあります。

2011 年 3 月 11 日以降、一部未処理の期間があります。